

2019年7月10日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

## Netskope 社の統合セキュリティプラットフォームを提供開始 クラウドサービスのセキュリティ対策を一元管理

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:菊地 哲、本社:東京都千代田区、略称:CTC)は、Netskope, Inc.(CEO:Sanjay Beri、本社:米国カリフォルニア州、日本法人:Netskope Japan 株式会社、カンントリーマネージャー:大黒 甚一郎、以下:Netskope 社)の、クラウド利用におけるセキュリティ対策の統合プラットフォーム「The Netskope プラットフォーム」の販売を開始します。クラウドを利用した働き方改革や生産性向上の取り組みを推進する企業に向けて展開し、関連システムを含めて3年間で5億円の売上を目指します。

近年、企業では、クラウドサービスやモバイル端末を活用した働き方改革が進んでいます。複数のクラウドサービスを併用する環境では、サービスごとにセキュリティ機能の違いがあり、システム担当者の負担となるケースがあります。

The Netskope プラットフォームは、SaaS や Web サービス、IaaS の利用状況の可視化や制御など、セキュリティ対策を統合して一元的な管理を実現するプラットフォームです。それぞれの環境に適したセキュリティ機能があるため個別のセキュリティ対策ソフトウェアを導入する必要がなく、共通の操作により企業はセキュリティ運用の負荷を軽減するとともに、複数のクラウドサービスを安全に活用し、生産性の向上を図ることができます。主な機能は以下の通りです。

### •Netskope for SaaS

ユーザーとクラウドサービス間の通信内容から、Microsoft Office 365 や Box、Google G Suite など 30,000 を超えるクラウドアプリケーションの検出が可能で、利用状況の把握や管理、情報漏洩対策、不正利用の排除など、可視化、データ保護、制御、脅威防御の機能を提供し、安全なクラウド利用環境を提供することでクラウドの利便性を高めます。

### •Netskope for IaaS

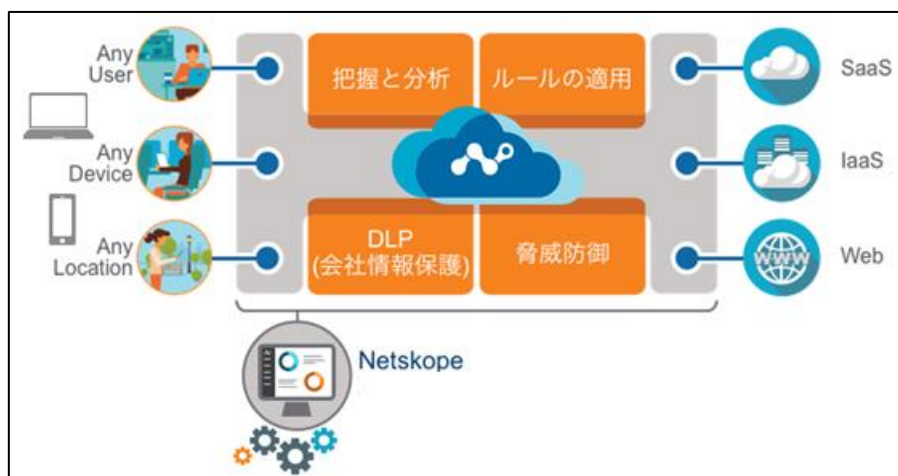
企業における AWS、GCP、Azure のリソースを横断的に監視してセキュリティを高めます。IaaS からの情報漏えいの 99%は属人的に作られたリソースのセキュリティのばらつきによって起こります。Netskope for IaaS は企業の、セキュリティレベルの異なるすべてのリソースを約 200 項目以上の監査項目、ベストプラクティスを基に監視し、セキュリティを高いレベルに引き上げます。

•Netskope for Web

企業のポリシーにあわせて Web サイトへのアクセスを制御する機能。業務に無関係なサイトや、セキュリティ上閲覧が危険なサイトなどへの Web アクセスを制御する Web フィルタリングを実施できます。

CTC は、長年のセキュリティソリューションの提供やクラウドを利用した大規模なシステム構築／運用実績をもとに、The Netskope プラットフォームの導入支援や保守などのサービスを提供します。また、ネットワークの設計変更なども併せてお客様のセキュリティ対策を支援します。

<The Netskope プラットフォームの機能イメージ>



■Netskope 社について

Netskope は、米国カリフォルニア州に本社があるクラウド向けセキュリティのリーディングカンパニーです。2017 年に日本法人を設立して以降、国内導入実績は 50 社を、ユーザー数では 9 万ユーザーを超え、日本国内でのビジネスを拡大しています。

※記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

※掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>  
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
広報部

TEL:03-6203-4100/E-mail:[press@ctc-g.co.jp](mailto:press@ctc-g.co.jp)